

高校野球特別規則（2021年度版）改正の要点解説

4 オーダー用紙の取り扱い（一部改正）

ケース3：試合中に誤記が判明した場合

没収試合は、大会主催者および当該チーム、担当審判員が十分に注意すれば避けられるものであり、公認野球規則（4.07【注1】）に記載のとおり、審判員がとるべき最終手段であり、安易に適用されるものではありません。

2018年全日本野球協会アマチュア野球規則委員会から、没収試合の防止に向けての通達があったことに基づき、単純なミスの場合は没収試合を適用せず、悪質な場合（登録外選手が当該チームの所属連盟以外の部員であった）のみ適用することとした。

15 タイムの制限（一部改正および修正）

(1)⑥ 一部修正

規則内容の変更ではなく、文言をわかりやすい表現に変更した。

(2)① 一部修正

規則内容に変更ではなく、他の規則の文言に合わせた。

(3) 一部改正

グラウンド内にいる攻撃側および守備側の選手に対して、監督が指示を与えるなど、どんな場合でもベンチに呼び戻さず、常に伝令を使うこととした。

16 捕手の本塁上のプレイ（一部改正）

規則 6.01 (h) (1)【付記】の適用について、文言の「塁線上」を「塁線上および塁上」に改正した。

(4)①② 削除 (4)(5) 追記 (5)→(6) 変更

常に捕手および走者の安全を確保するため、捕手がボールを保持していなくても塁線上および塁上に足を置いてはいけないこととしたため、ボールを保持する前の捕手の立つ位置の図及び説明文を削除とした。

また、ボールを保持しているかどうかにかかわらず、塁線上および塁上に脚を横倒しにする（捕手のブロック）などの行為を禁止した。

2012年度制定アマチュア野球内規⑩危険防止（ラフプレイ禁止）ルール参照

22 タイブレイク制度の採用（一部削除）

(2)⑦ 削除

決勝戦もタイブレイク制度を採用することになったため、削除とした。

23 サスペンデッドゲームの取り扱い（一部削除）

サスペンデッドゲームは高校野球では適用しないが、後文に記載されているコールドゲームが宣告された正式試合において、勝敗を決する規則内容については、公認野球規則（7.01(g)(4)(注)）に記載されており、サスペンデッドゲームの取り扱いとは別の内容であるため、削除とした。

27 反則投球の取り扱い（一部追記）

(1) 追記

2018年度規則改正に伴い、高校野球特別規則 28（現在 27）で制定したもので、反則投球の適用に変更はないが、高校野球では、正しい投球姿勢（スムーズな投球姿勢）の励行・徹底をしており、二段モーションは投球動作に違反した投球であることを明確にするため、文言を追記とした。